

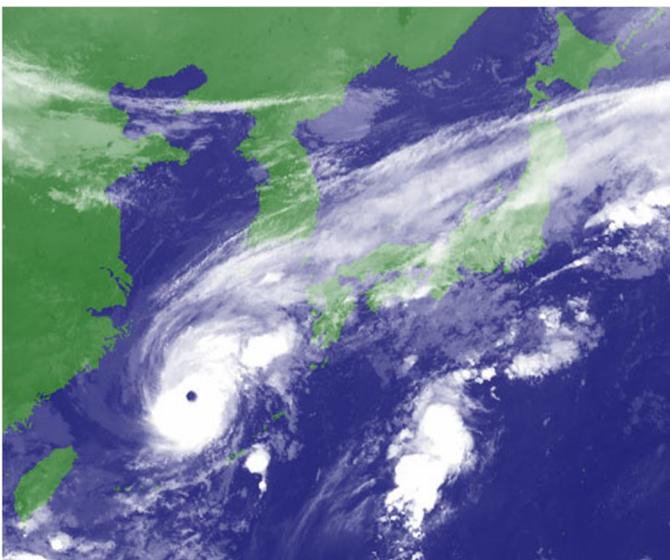
「台風 16 号を教材化する (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

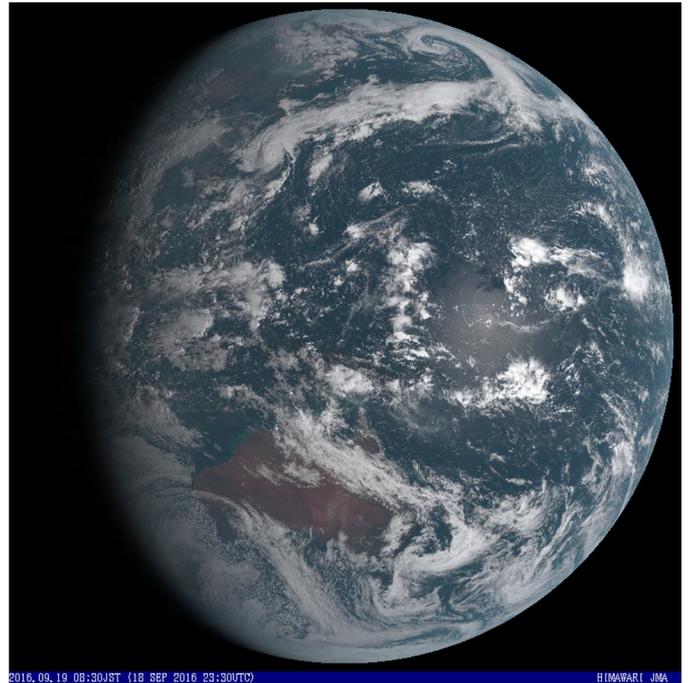
今回列島に接近した台風 16 号は、各地に被害を及ぼしたが、理科の教材としては非常に優れたものだった。「教材性の高い台風」と言える。被害を残した台風を教材化するのはどんなものかと、とも思えるが、実害があったからこそ、教材化する価値があるのだ。



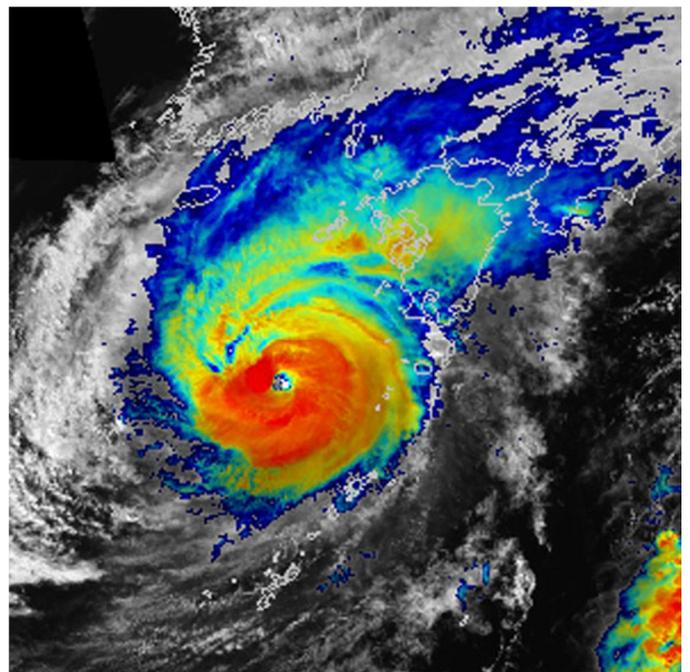
理由の一つは、台風 16 号がたどった径路である。北緯 12° 付近で発生し、最初は西へ。台湾付近で北に進路を変え、その後偏西風に乗って東へ。実に台風らしい「理想的な」カーブを描いている。



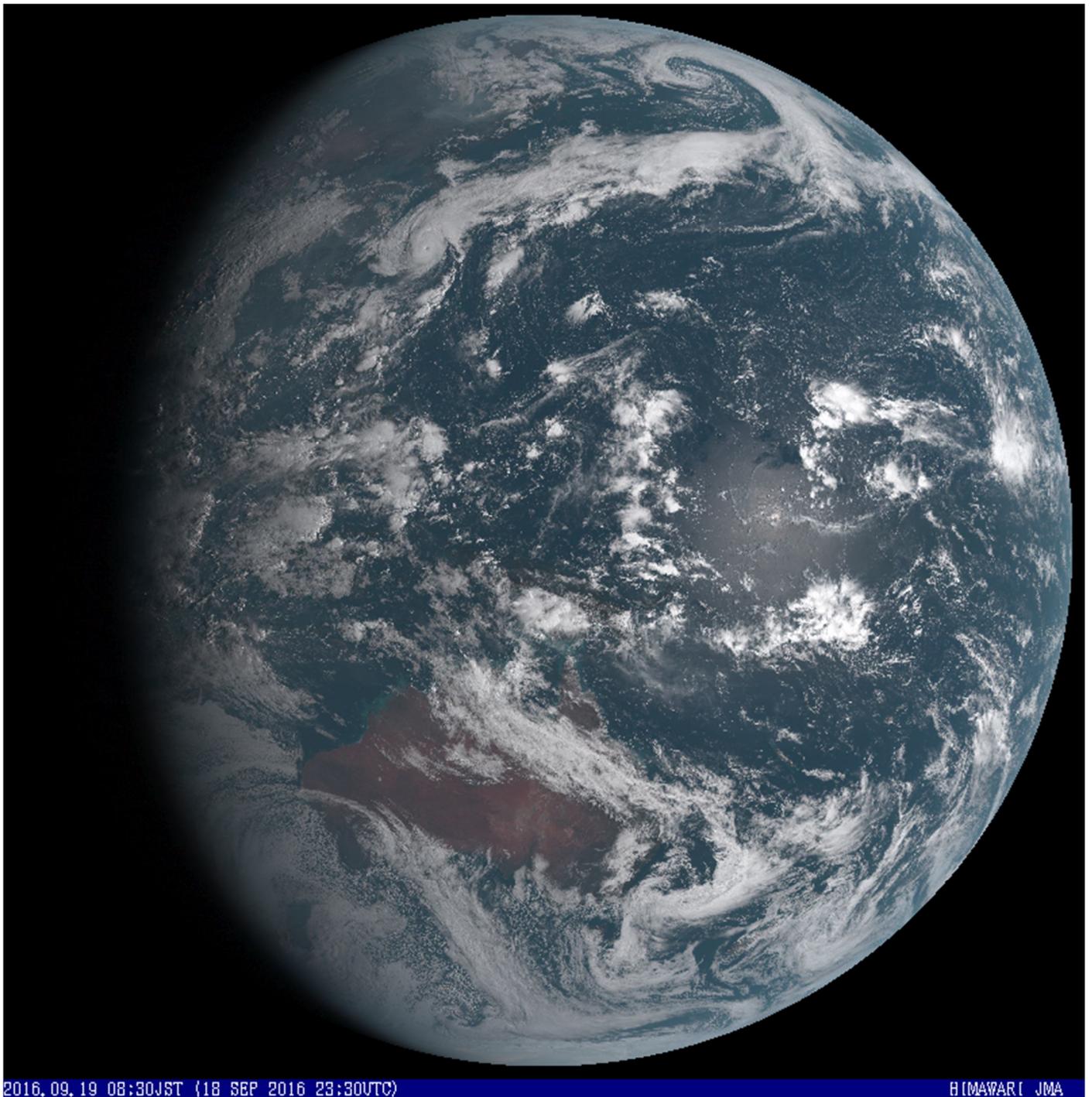
もう一つは、はっきりとした「目」の存在だ。特にトカラ列島付近を通過中には、見事な目が見られた。



上の写真も気象庁のHPに掲載されたものだ。「気象衛星」→「全球」→「カラー可視」で見られる。台風 16 号は中央上、少し左よりにあるが、驚いたことに、全球画像で見ても「目」がはっきりわかる。(2 ページ目の拡大画像ではよりはっきり確認できる)



これは「高頻度衛星画像」→「雲頂強調」で見た、中心付近の画像。目が立体的に確認できる。こうした画像も、授業では非常に役立つものだ。



9月19日 午前8:30の全球可視画像（気象庁）

全球レベルでは、台風16号は非常に小さな存在だが、驚くべきことに「目」がはっきりと確認できる。また、台風から延びた、長大な雲の帯が、北極圏近くの巨大な低気圧渦につながっている様子も観察できる。総延長は3000km以上あるだろう。赤道付近の中央右側の「てかり」は、太平洋に太陽光は反映したものである。画像左側の欠けている部分は「夜」の領域で、これから「夜明け」を迎える地域だ。オーストラリア大陸には、ほとんど雲がない。このように、この画像1枚だけでも、非常に高い教材性を持っていることが理解できる。